

外国人からみた観光都市神戸としての緑に関する意識調査

神戸市立工業高等専門学校 都市工学科
沖本慎一

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

神戸市には、多くの外国人が観光等を目的として来訪する。神戸市立高専においても、国際交流活動として、インドネシアやシアトルとの学生間の交流活動やホームステイ等の活動を行っている。本研究は、海外から来る外国人にとって、神戸市の緑と街の繋がりや魅力度について、外国人来訪者の意識の上から調査することを目的とする。

神戸市では、2000（平成12）年7月に、2025（平成37）年を目標年次とし、「緑とともに永遠に生き続ける都市＝緑生都市」を基本理念とする計画『グリーンコウベ21プラン（神戸市緑の基本計画）』を策定している。神戸市の緑の計画として、その都市空間が、「みどり」、「まち」、「田園」の3つのゾーンで構成され、これらを繋ぐことに着目し、緑の将来像を描き、「緑生都市」実現に向けた施策展開の方向を進めている。¹⁾

本研究では、緑の都市空間づくりの考え方に、外国人の訪日来訪者からみた視点を検証・評価し、海外来訪者からの感性を取り入れる観点を持ち、「緑生都市」神戸のあり方等を検討する。また、神戸の街のオープンスペース、ガーデン緑化、身近な緑の意識についても外国人からの意識を検討し、デザイン都市神戸、観光都市神戸のあり方の向上の模索を、本研究の期待される結果又はその効果と位置づける。

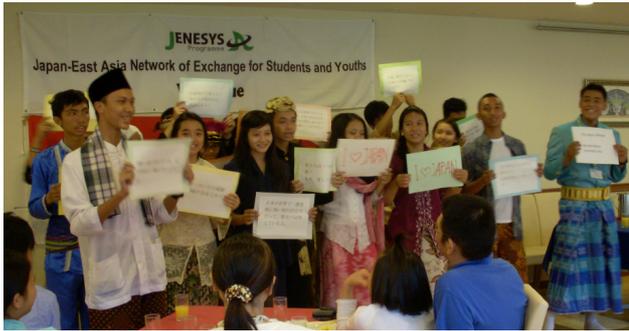
(2) 神戸の緑の定義

『緑』の定義は、一般には、樹木、草花等の植生を示すものであるが、都市として観るとき、オープンスペース等、その『緑』を含めた都市空間構成全体を捉えた広い意味合いを持つ存在として、研究対象を考える。¹⁾

実際に、日本の都市は神戸だけに限らず、高度経済成長期とともに、多くの街で画一的な都市計画が進められたと考える。狭い国土の我が国において、コンクリートのビル街や構造物に囲まれた街づくりはやむ得ないのかもしれない。しかし成熟期の我が国にとって、都市の再生に緑の街への取り込みは、今後積極的に行われるべきと考える。コンクリートの緑化や緑の回廊造り、緑は人間の生活空間のうるおいを与える重要な要素なので、都市の中に緑の連続的な繋がり空間を持たせることは、神戸の都市計画としても必要不可欠なものとする。

また神戸市は、海と山の間形成された街であり、『陸、海、空』のアクセスにおいて、最適な立地にある。しかし、海外にも沢山の魅力ある街があることも痛切に感ずる。

本研究は、海外の人からみた時、『神戸はどのように映る街なのか』という素朴な疑問から検討したいとの趣旨やその想いがある。海上アクセス、神戸空港、新神戸駅からこの街に降りた時、『この街に海外の人は何を観るのだろうか』、それが本研究の動機である。



写真－1 JENESYSプログラムにより、神戸市立高専へ来日したインドネシア留学生

2. 神戸市における街と緑に関する外国人からみたアンケート意識調査

神戸には、多くの観光名所やランドマークがある。本研究では、外国人から神戸の街の風景、緑の存在が、どのように意識されるかを主に検討する。その手法として、スライド風景写真等を用いたアンケート調査をすべて英文にて行った。

(1) 被験者 (Trialist) とプロフィール

神戸には、多くの外国人が在住する。本研究の被験者プロフィール項目として、性別、年齢、在籍国（出身国）、神戸への訪問回数、滞在（延べ）日数を検討した。具体的に、被験者の協力をお願いしたのは、公立大学法人 神戸市外国語大学の在籍留学生9名（C³ Space（シーキューブスペースCross-Cultural Communication Space）在籍者）、及び、公益財団法人 神戸国際協力交流センターに所属留学生2名（神戸大学所属）の計11名をアンケート調査等の対象者とした。表－1に被験者の国籍を示す。ベトナム、モンゴル、ドイツ、フランス、アメリカ、ロシア、中国、韓国と多くの国々からの結果を得た。



写真－2 神戸の緑と意識調査の神戸市外国語大学、C³Spaceでの被験者確認

(2) スライド写真の設定

神戸市全域の代表風景を表す21箇所のイメージ写真スライドを無料壁紙ダウンロード等から作製した。²⁾各スライドは、数枚の遠景、中景、近景写真を用い、その風景箇所に

表－１ 被験者数とその国籍と分類

発展途上国		Vietnam	1	2
developing nation		Mongolia	1	
先進国		Germany	1	5
advanced nation		France	1	
		USA	2	
		Russia	1	
アジア近隣諸国		China	3	4
Asian Neighboring Countries		Korea	1	

おけるイメージをまとめた。また、地域性（エリアカテゴリー）・モニュメント・対象物の存在感等も、スライド写真内に表現できるように配置・配慮した。

（３）イメージ形容詞の選定とSD法

本研究は、写真のイメージを形容詞等の言葉に５段階評価を行うことで、潜在的な感性の風景イメージ因子を抽出するSD法を用いた。SD法(Semantic Differential method)は言葉でその感性を測定する方法で、心理学的測定、意味的構造を明らかにしようとする目的で用いられる一般的な方法である。

3. SD法による神戸の風景イメージ因子の解析と結果

（１）イメージ形容詞への評価

下記のような質問を34のイメージ形容詞について、被験者に5段階評価の回答を求めた。(Questionnaire Section)

How do you have feeling through watching this photograph(picture) ?

Please evaluate your feeling score between each image next word and photo.

Example) No1. Image word: 『Unified(Unity)』 feeling

If this photograph does not have 『Unified(Unity)』 at all, evaluating score is 1. If this photograph has 『Unified(Unity)』 slightly, evaluating score is 2. If this photograph has 『Unified(Unity)』 normally, evaluating score is 3. If this photograph has 『Unified(Unity)』 greatly, evaluating score is 4. If this photograph has 『Unified(Unity)』 very greatly, evaluating score is 5

（２）評価因子と因子負荷量

形容詞群と写真スライド群による因子分析の結果、共通因子数はその固有値の結果から、3が妥当と考えた。34の形容詞は、バリマックス回転後の各因子負荷量の大きさから、16の形容詞に絞り込んだ。その結果、60.4%が第1因子となり、第2、第3因子が続くこととなった。各因子の解釈として、形容詞を統合し、その因子軸に意味を持たせた。

今、第1因子をTown Hospitality FACTOR、第2因子、第3因子をDimensional FACTOR、Structural FACTORと整理した。特に神戸の風景は、個性があり、印象的、暖かく、興味のあるTown Hospitality FACTORが第1共通因子として強く算出された。表-2に、その直交回転後の因子負荷量を示す。

Town Hospitality FACTOR SCOREからみた結果、新生田川等の河川軸や生態系の西区、北区のため池、神戸医療産業都市の値は、ホスピタリティー性の弱いイメージとなった。

逆に、神戸布引ハーブ園、有馬温泉、六甲山牧場、南京町、須磨水族園等の多くの場所ではホスピタリティー性の強いイメージとなった。

表-2 直交回転後の因子負荷量

直交回転後の因子負荷量(VARIMAX)

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
02.Individual(characteristic)	-0.88604	0.052074	-0.04906	0.790181
04.Variety	-0.82758	0.026639	-0.25162	0.748904
05.Monotonous	0.963427	-0.07441	-0.03072	0.934672
07.Popular(democratic feeling)	-0.90075	0.145481	-0.16385	0.859364
08.Artificial	-0.17997	0.309395	-0.80349	0.773719
09.Mental pressure	0.362955	-0.09108	-0.81948	0.811583
16.Impression	-0.89485	0.315368	0.188179	0.935623
17.Lively feeling	-0.86793	-0.01433	0.017771	0.753817
18.Distant view	-0.02257	0.838061	0.042189	0.704636
20.Merry(Cheerful feeling)	-0.87585	0.37105	0.126556	0.920811
21.Longing	-0.9001	0.190556	0.143	0.866935
23.Warm-hearted	-0.82712	0.079211	0.448814	0.891832
25.Interested	-0.92882	-0.0224	0.174677	0.893729
26.Favorites	-0.95535	0.147839	0.173577	0.964672
31.Three-dimensional(3D)	-0.21832	0.85873	-0.33882	0.899881
34.charming	-0.80994	0.421865	0.149736	0.856396
因子負荷量の二乗和	9.668661	2.054163	1.883932	
寄与率	60.42913	12.83852	11.77457	
累積寄与率	60.42913	73.26765	85.04222	

(3) Town Hospitality FACTOR SCOREと緑の必要性の関係

アンケートの次の英文質問から、緑の必要性を定量化した。

Questionnaire Section)

There are 21 pieces of photograph slides. Please answer in your opinion while taking a look at each

photograph. Q) Do you think that there should be enough green in this place of the photograph's area? Please choose number. 1. Necessary 2. Normal 3. Not Necessary 今、上記の英文評価の集計値から、Town Hospitality FACTOR SCORE と緑の必要性の関係性を調べた。図-1に、その関係性の結果を示す。今、Town Hospitality FACTOR SCORE の値が小さいほど、神戸の街としての風景のイメージへのおもてなしの要素と考えたホスピタリティーに富む要素が大きいと解釈される。逆に、Town Hospitality FACTOR SCORE の値が大きいほど、ホスピタリティー性のない魅力のない街として、被験者からはそのイメージが捉えられ、そこに、緑の必要性を感じるという関係性が明確になった。

すなわち、多くの海外からの来訪者は、街のおもてなしの多くの要素を神戸に見つけ、かつその緑化の空間的存在との関係性を意識しているものと推察される。

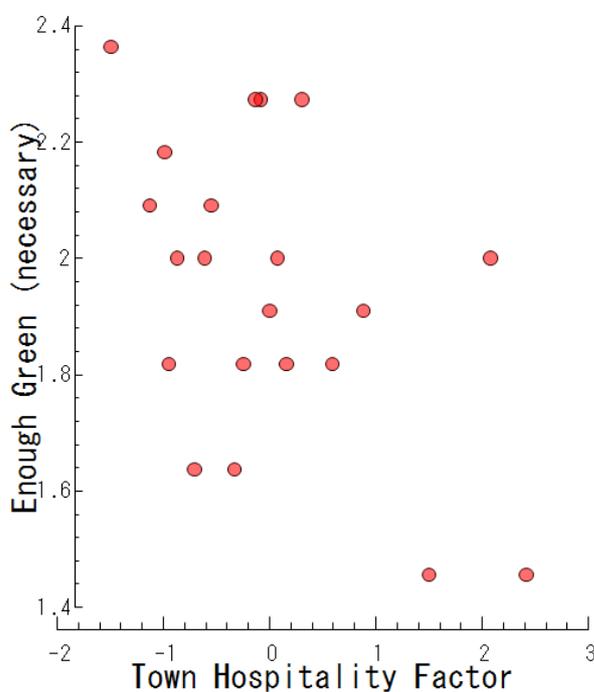
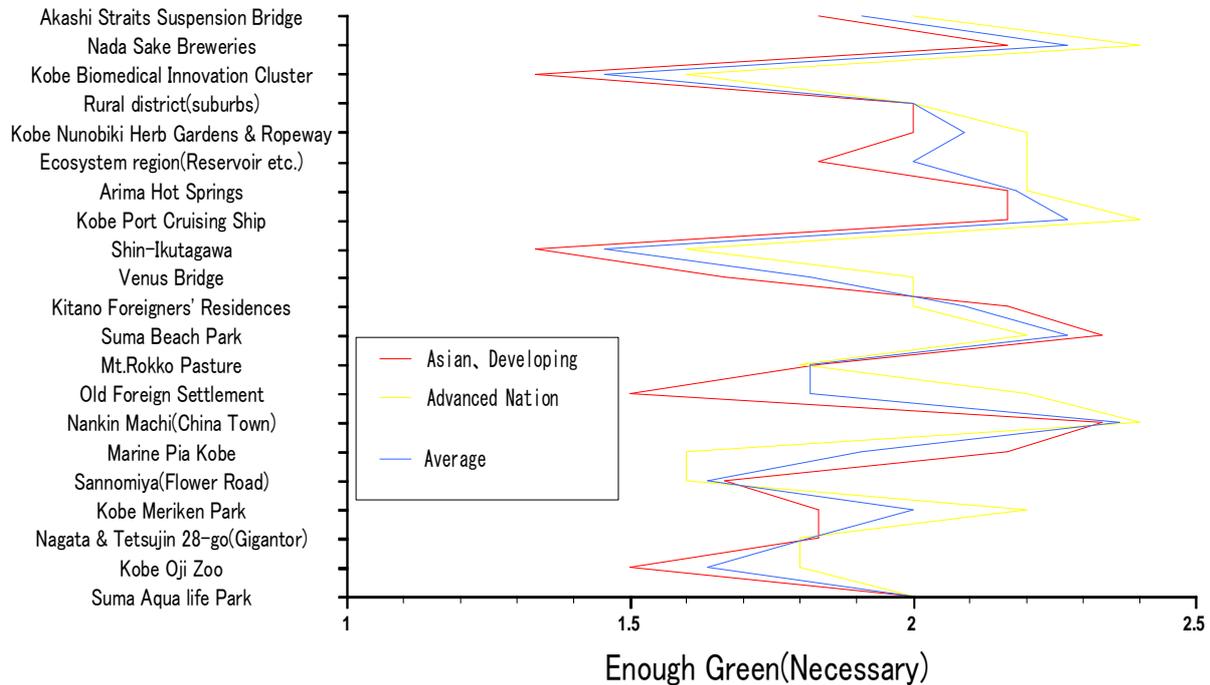


写真-3 Town Hospitalityの低い河川軸や神戸医療産業都市¹⁾

図-1 Town Hospitality FACTOR SCOREと緑の必要性の関係性

次に、第2、第3因子の影響は小さいものの、両因子は都市空間や構成的な尺度となり、第2因子の立体的景観（プラススコア）、第3因子の人工的圧迫感（マイナススコア）に着目し検討すると、神戸医療産業都市等の現風景は、建設途中の発展期でもあるので、今後その配慮のある推進をすべきと考える。高度医療や技術とともに、緑を通した人間の都市・神戸の姿が計画的に求められると考える。緑とTown Hospitalityには、関係があり、その空間設計は、国内外、様々な人々の感性をも考慮した街が計画されなければならないと考える。本研究では、被験者の数は少ないものの、多くの数量データから、緑の存在と街のおもてなし要素に関連が定量的にあることを検証できたことが大きい成果と考える。



図－２ 緑の必要性の集計結果

4. 外国人のオープンスペースに対する認識の結果

外国人のオープンスペースに対する認識の結果についてもまとめた。先進国の留学生の被験者（欧米人）にとっては、神戸のオープンスペースは多いものとは認識されず、逆に、アジア近隣諸国（中国、韓国）の被験者には、多いものと認識されており、非常に極端な視点を持つことが分かった。確かに、ヨーロッパのカフェやレストラン街は、道路沿いに多くの屋外空間が利用されている。先進国の人にとって、神戸だけでなく国土の狭い日本のオープンスペースは、貧弱なものに見えるものとする。

5. まとめ

本研究は、緑の都市の空間づくりについて、外国人の訪日來訪者からみた検討を行った。その成果として、海外からの來訪者は、街の多くのおもてなしの要素を神戸に見つけ、かつ緑化の存在の関係を十分に意識している。また先進国とアジア近隣諸国の被験者は、オープンスペース等、街の空間における感性的視点が異なる可能性がある。

謝辞：神戸市外国語大学の屋久和夫氏、久野友士氏、及び公益財団法人神戸国際協力交流センターの留学生サロン参加の機会を頂いた皆さんに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 神戸市「緑の基本計画（グリーンコウベ21プラン）」
- 2) 神戸国際観光コンベンション協会「Feel KOBE」